

青少年専門員だより

第85号

令和8年8月3日



ワクワクする気持ちが未来を切り拓く — 夢をつなぐブランコ —



令和8年度 置賜社会教育振興会・置賜地区青少年育成連絡協議会・長井市まちづくり青少年育成市民会議合同研修会が6月27日（土）に、長井市置賜生涯学習プラザを会場に開催されました。

講師である冒険家の小松登志子氏は、約50年にわたり世界各地で暮らし、働きながら得た経験をもとに、「ひらめき」や「ワクワクする気持ち」を大切に行動することが、人生を豊かにする鍵であると語りました。中でも、ネパール大地震を契機に始めた「ブランコプロジェクト」では、山間部の小学校へブランコや学用品を届ける活動を継続し、日本の子どもたちの手紙や絵を通して国際交流を広げています。今年度も複数の学校を訪問予定であり、「支援とは物だけでなく心を届けることです」との言葉が印象的でした。

また、プロジェクトに参加した小学生による作文発表では、ネパールの子どもたちに英語やネパール語で手紙を書いた経験を通して、相手の立場に立って考えることの大切さや国際交流の意義を学び、将来は世界で人々を助ける存在になりたいという夢が語られました。講師の活動が、子どもたちの夢や挑戦する気持ちを育んでいることが伝わってきました。

さらに、アラスカでの勤務や留置施設でのヨガ指導など、多様な経験を紹介し、その中で人との出会いや信頼関係の大切さ、感謝や思いやりの言葉が人間関係を豊かにすることを具体的に示しました。加えて、呼吸法や笑い、人の話に共感して耳を傾ける姿勢、「ありがとう」を伝えることなど、心身の健康とより良い人間関係づくりの実践についても紹介されました。

講演を通して、「挑戦する勇気」「人とのつながり」「感謝と思いやり」を大切にし、自ら行動することで人生や社会をより豊かにできることを学ぶ貴重な機会となりました。また、小学生による発表や国際交流の取組から、国際理解や夢を育む教育の重要性について改めて考えさせられました。

毎月第3日曜日は「家庭の日」

8月

「地域の人々とふれあい、
交流を深める」

・家族で地域の行事に
参加しましょう。



9月

「お年寄りを敬い、お互いを
思いやる」

・おいちゃん、おばあ
ちゃんと話をしましょう、
話を聞きましょう。



上段が月別推進テーマ、下段が行動実践事例です。

家族そろって笑顔で過ごす時間をつくりましょう

こどもを **性被害** から守るために

～ 夏休みは、青少年の性被害が増えやすく、特に注意が求められる時期です ～

性暴力は、同意のない性的な行為であり、重大な人権侵害です。被害は年齢や性別を問わず、身近な人や SNS を通じて起こり得ます。特にこどもの被害は深刻であり、周囲の大人の気づきと適切な対応が重要です。

1. こどものサインを見逃さない

性被害を受けたこどもは、言葉にできなくても、心身や行動に変化が現れることがあります。⇒ 例： おねしょ、体調不良、不眠、学力低下、自傷行為、問題行動 など

日頃からこどもの様子に気を配り、小さな変化にも注意しましょう。

2. 気づいたときの対応

- (1) こどもを絶対に責めない
「あなたは悪くない」と伝え、安心させることが大切です。
- (2) 話を無理に聞き出さない
詳しい確認は専門機関につなぎましょう。
- (3) できるだけ早く専門機関へ相談・受診する

3. 相談窓口

一人で抱え込まず、早めに相談しましょう。

- ・ 性犯罪被害相談： #8103
- ・ 児童相談所： 189
- ・ ワンストップ支援センター： #8891

4. 日頃からこどもに伝えておきたいこと

- ・ 体の大切な部分は見せない・触らせない
- ・ いやなことは「いや」と言ってよい
- ・ 困ったことがあれば大人に相談する
- ・ 自分も相手も大切な存在であること

5. 大人の役割

こどもが安心して話せる関係づくりが何より大切です。家庭や地域でのコミュニケーションを大切にし、すべての大人が見守る意識を持ちましょう。こどもの小さな SOS に気づき、早期対応につなげることが、被害の防止と回復の第一歩です。



雨傘は 日傘にもなる
あのと時の雨は
つらかったけれど
その中で
手にしたものがあ
る
支えてもらったこと
あきらめなかったこと
気づけば今
自分で傘をさしている
強い日差しの中でも
決して負けないように

